

砂金あった！ 南富良野高生 郷土史を体感

【南富良野】町の歴史を学ぶ授業が29日、南富良野高で行われた。元町教育委員会職員の山名賢一さん(78)が講師となり、砂金採取が盛んだった歴史を解説した。

3年生11人が参加。山名さんが町史に基づき、1891年(明治24年)ごろに砂金掘りの人たちが入ってきたことを説明。「当時は粗末な小屋を建て、トナシベツ川周辺で砂金を採っていた」と解説した。かつて使われていた木製の砂金採取道具「揺り板」の実物を紹介し、生徒たちは熱心に耳を傾けていた。



山名さん(左から2人目)に教わりながら砂金掘りを体験する生徒

後半は宗谷管内中頓別町の砂金掘りセット、「ゴールドパン」と呼ばれる専用の器を使って砂金採取を体験した。生徒たちは金の混じった砂をゴールドパンに入れ、水で揺すったりしながら底に残る微細な金に目を凝らした。砂金が見つかるとうれしく、「あった!」「小さすぎて虫眼鏡がいる」と驚きの声が上がった。

町内出身の秋田駿也さん(17)は「小学生の時に町内の川で体験したことがある。すごく難しく、これを仕事にしていた人はすごい」と感心していた。

(川上舞)